



第38回 葛飾区 産業フェア

それ、葛飾で
できるよ！

今年で第38回開催となる葛飾区産業フェアは、東京都産業教育振興会が後援している事業。工業・商業・観光展は10/14(金)～16(日)、農業・伝統産業展は10/21(金)～23(日)と2週間にわたる大きなイベントです。会場は、「テクノプラザかつしか」「東京都城東地区中小企業振興センター」の2カ所。

10月15日(土)、工業・商業・観光展を短時間で訪れることができましたので、会員企業や会員校の活動を紹介します。

「テクノプラザかつしか」1階入口から会場に一步足を踏み入れると、通路の両側に「ものづくり」のブースがつながり、その間をたくさんの来場者が行き来していました。

「かつしか異業種交流会」ブースでは、小学生の子どもを連れた親子が電子工作に取り組み、「葛飾区ねじ連合会」ブースでは、小学生がねじ転造機の大きなハンドルを回して小さなねじを作っていました。会場のあちらこちらで、子どもたちが機械や道具を使って「ものづくり」の楽しさを味わっていることがよくわかりました。できれば、写真で紹介したいところでしたが、子どもたちにカメラを向けることはできませんでした。ご了解ください。

「葛飾区プラスチック工業連合会」ブースでは、本会会員であるダイヤユーキ株式会社代表の鈴木総一郎氏にお話を伺うことができました。

ダイヤユーキは、アクリル、ポリカーボ等無色透明のパイプ、丸棒、ブロック等素材の、流通、商品企画、製造、販売をしている企業です。

円柱状の製品は、「円柱レンズ」といい、夜間、船舶が港や航路上を安全に航行するための誘導灯に使われているとのことでした。プラスチックの海洋ごみ問題についても、学べるよう資料が用意されていました。

(右上は会場展示の様子、右は水族館における「コツメカワウソ飼育槽」への使用例です。)



「墨田・葛飾プレス安全協議会」ブースでは、有限会社飯吉製作所代表の飯吉修一氏にお話を伺うことができました。飯吉製作所は、アルミ押し出し型材のプレス加工金型をはじめとした各種プレス金型分野の設計製作やキャスターの製造販売をしている企業です。金型は文字通り製品の型となるもの、高度な技術を必要とします。

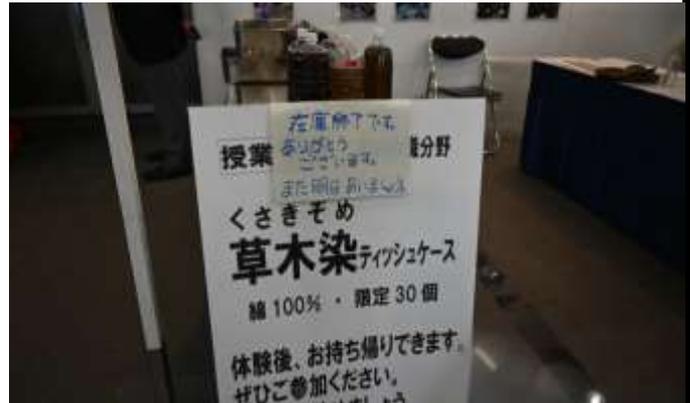
飯吉氏は、この産業フェア第1回から関わり、第9回の実行委員長を務めるなど、運営に深く関わっています。「昨日の金曜日は、子どもたちがたくさん参加してくれ、今日は、親を連れてきてくれた。」などと、産業フェアの歴史と盛況ぶりをお聞きすることができました。

葛飾区のように町工場の多い地域でも、日常生活の中で、ものづくりの現場を直接見ることはなかなかできません。ましてや、大きな機械を操作してものづくりができるという体験ができるなど、「産業フェア」は、子どもたちにとっても素晴らしい機会になったのではないのでしょうか。

「東京都東地域中小企業振興センター」の会場は、センターの施設公開の他に都立本所工業高校と都立葛飾総合高校のブースがありました。

葛飾総合高校のブースでの体験は、「ティッシュケースの草木染」で、用意した数に達したようで、ブースを訪れたときにはすでに休業状態でした。

作ってみたいと思える人気の小物だったようです。



一方の本所工業高校のブースには、たくさんの人ばかりで、大盛況でした。

体験は「テーブルタップの製作」で、下の写真のようにお母さん方もドライバーを手にして、真剣に作業され、好評のようでした。コードの長さは何種類か用意されているので、必要とする長さの延長コードが作れるとあって、お母さん方には、「作って使える」実用的なものだったようです。



校名が入ったビブスを着ているのが講師役の在校生です。

工具の使い方を説明し、難しい作業は手伝うなど、マンツーマンで対応していました。自分が身に付けた技術や技能が地域社会の人たちの役に立つという体験と実感は、生徒の皆さんにとっても有意義な時間になったのではないのでしょうか。



コードの端末処理は圧着ペンチなど使い、完成後は検査をし、安全確認までしっかりとしていました